

沖縄・うるま陸自訓練場説明会

断念求める声噴出

防衛省は1日、沖縄興るま市石川地域のゴルフ場跡地に建設を計画している陸上自衛隊の新たな訓練場について、住民説明会を開き、同地域で開きました。「(防衛省は)自分たちに都會が良い利用だけを考えて訓練場を造る。住民のことは考えていないのではないか」と意見が出るなど、計画への怒りや断念を求める声が噴出しました。

同省は、説明会開催にあたって参加者をブルフ場跡周辺の2地区(旭区、東山)住民に限定しましたが、約280人が参加。用意された席の大半が埋まりました。

沖縄防衛局の森庄芳光企画部長は、他国攻撃のためのミサイル部隊配備など、沖縄・南西諸島で進めてくる軍事力増強の必要性を強調。訓練場使用に際して集弾、空包の不使用や、緊急時を除いて自衛隊への飛行はしないなどとして、「地域への影響を最小限にする」と述べました。

雪原忠智さんは、旭東山町などが訓練場として選定した。進む所を止めた

訓練場建設反対の意見を述べる参加者の男性(中央)。11日、沖縄県うるま市石川

だきたら」と述べ、住民意思と耳を傾れない姿勢を示しました。

参加者の一人は、与那国島で陸上自衛隊を設立した際に沿岸監視部隊のみの配備だと説明しながら、防衛省は今、ミサイル配備を強行しようとすると指摘。反対の決議を上げて、「沖縄は使わないとか影響を最小限にする」とか「それでも、エスカレートするのを止めさせていね。行使権でもない」と批判しました。



東山町などが訓練場として選定した。進む所を止めた